

「両刃の剣」としての地域研究

編集後記に代えて

本号を編集する過程で、イラクへの軍事力行使に関する国連安保理での新たな決議採択は本当に可能なのかと気をもんでいたところにニュースが飛び込んできた。英米軍が3月20日、ついにイラクを攻撃したのである。それは地域研究者の役割が深刻に問われる歴史的な事件でもあった。この軍事作戦は「イラクの自由」と名づけられた。それはサッダーム・フセイン政権の転覆を目指した軍事行動であり、その軍事行動を正当化する名目は、イラクの民主化、そしてイラク国民に自由をもたらすことであった。開戦当初、英米軍はイラク国民から解放軍として迎えられははずだった。しかし、そうはならなかった。

軍事攻撃を是認する国連安保理決議もないままに米英軍は空爆を開始した。このような前代未聞の新たな事態に直面したときに、地域研究者の役割はいつそう重要なものとなると私自身は確信している。というのも、今回の攻撃はブッシュ大統領およびその側近である新保守主義者と呼ばれるタカ派政治家たちによって立案され、実行に移されたと言われているからである。このような人々を生み出すアメリカ自体が、やはり地域研究の対象とならねばならない。そのことを今回の戦争は示しているように思える。われわれの理解を超えるアメリカの指導者の政治的な決断を、われわれはやはり内在的に理解する努力を行わなければならない。〈帝国〉であることを選択したアメリカは、世界の多くの人々の生活に甚大な影響を与えることになるからである。

と同時に、サッダームを生み出したイラクをも、われわれは知らなければならない。サッダームを独裁者として切り捨てるだけでは何の展望も見えてこない。イラクという国家の成り立ちやその歴史に関して知らなければ、いったいイラクの何を語るができるだろうか。サッダームの政治的個性だけに回収できない、イラクに内在する問題が厳然と存在する。マスコミ関係者にはわか勉強でイラクについて語っているが、やはりイラク固有の地域性を抜きにしてはイラク側の様子は見えてこないだろう。

さらに、地域研究者が果たす功罪についても改めて問われなければならない。とりわけ、今回のイラク攻撃を主張してきたアメリカの中東地域研究者が果たした政治的な役割も考える必要がある。ブッシュ大統領の側近中の側近ポール・ウォルフォウィッツ国防副長官は、日本でもいくつか翻訳がある著名なイスラーム研究の碩学について次のように語ったという。「バーナード・ルイスは中東問題やその関係を、実に客観的かつ独創的に、常に独立心に溢れる思考で、より広い文脈に見事に位置づけてくれた。バーナードは中東の複雑で重要な歴史をいかに理解したらいいかを教えてくれ、それをどのように使って、われわれがこれから何世代にもわたって、より良き世界を建設するためには次にどこへ向かうべきかを導いてくれたのである」。バーナード・ルイス、プリンストン大学名誉教授は、中東における「対テロ戦争」を主唱しイラク攻撃の必要性を力説してきた人物である。こ

ここでは、ルイス教授については、これ以上はふれない。しかし、アメリカにおける中東地域研究に関わってきた学者たちが、イラクをはじめとする中東地域に対する政策決定者たちの決定的なイメージを作りあげているともいえる。地域研究はその意味では両刃の剣である。

今回の特集あるいは小特集では、地域的には東南アジア、イスラエル／パレスチナ、そして朝鮮半島を取り上げている。シャロン政権誕生後、パレスチナへの戦争同然の武力攻撃を続けるイスラエルはもちろんのこと、2001年10月のインドネシア・バリ島でのテロ事件、にわかには緊張が高まりつつあるかに見える朝鮮半島、そのいずれの地域においても、9・11以後のアメリカの「反テロ戦争」によって、新たな問題が露呈し、グローバル化の状況のなかで地域を超えたところで同時代性が刻印されている。それぞれの地域に埋め込まれたグローバルな現代世界の一断面を、特集や個別論文をつうじて読み解くことができればと願っている。

(白杵 陽)

『地域研究論集』寄稿の御案内

『地域研究論集』は、地域研究に携わる研究者はもとより、隣接分野・異分野の領域に関わる方々などに広く開かれた雑誌として、年2回刊行しています。

本誌は、地域から世界を、また世界から地域を見つめる論考を募集しています。分野・地域は問いませんが、初出論文に限ります。

寄稿要項の詳細は、地域研究企画交流センターのホームページ (<http://www.minpaku.ac.jp/jcas/points/>) に掲載しておりますので、ご覧ください。「地域研究論集編集事務局」(jcasrvw@idc.minpaku.ac.jp) あてにメールにてご相談いただいても結構です。

なお、平成15年度の投稿論文の締め切りは第1号が2003年5月末日、第2号が2003年9月末日です。

『地域研究論集』 JCAS Review Vol.5 No.2

特集：グローバル化とアジア社会の変容——東南アジア地域研究の視点から

初版発行 2003年3月31日

編集・発行 国立民族学博物館

地域研究企画交流センター JCAS

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1

電話 06-6878-8343 FAX 06-6878-8353

E-mail : jcasmail@idc.minpaku.ac.jp

URL (JCAS Web) : <http://www.minpaku.ac.jp/jcas/>

制作 株式会社 平凡社

〒112-0001 東京都文京区白山2-29-4

電話 03-3818-0873 (代表) 03-3818-0874 (営業)

ISSN1343-1897

© 国立民族学博物館 地域研究企画交流センター

© 2003 by the Japan Center for Area Studies

Published by the Japan Center for Area Studies,

National Museum of Ethnology, Osaka, 565-8511 Japan

Printed in Japan